

地方協議会開催状況概要(速報版)

資料 1

議題ごとの主な意見		
荷主	トラック事業者	その他
<p>・一概に労働時間が長いと言っても、運転時間が長いのか、手待ち時間が長いのか、調査の内容を精査して地域の特性を把握することが大事だと思う。</p> <p>・長時間労働の問題は荷主だけのせいではなく、社会全体の問題である。客から無理な時間帯に商品を届けるよう要望され負担となっている部分もある。</p> <p>・運送環境は厳しいが生きていくなかで物流は大切である。時間指定、積み卸し作業等の附帯業務もきちんと契約し対応していく事が必要。協力業者からは、今の運賃だと対応出来ないと言われている。関係者の取組により輸送の重要性を一般の方々にも認識いただき、輸送コストを価格に反映していく必要がある。</p> <p>・通常期は、そんなに運送事業者を待たせてはいないが、荷物量が増える繁忙期にはどうしても待たせざるを得ない状況。発荷主だけではなく、着荷主側の責任も大いにある。すべては荷主に跳ね返ってくるという認識は持っている。</p> <p>・着荷主のニーズの多様化も一因であると考えられるため、発荷主のみならず、着荷主も含めて議論することが重要ではないか。</p>	<p>・荷主の要望により長時間労働に至っている。勤務割り、運行指示書の作成時には荷積み時間として30分を見込んでいるが、荷主からの指定時間によっては、各輸送会社が同じ時間帯に集まるため待ち時間が発生し、積み荷下ろしに1時間以上かかっている。</p> <p>・繁忙期と閑散期の差が激しく、繁忙期は物流センター等にトラックが集中して手待ち時間が発生する。発荷主の中には朝一番に積み込みが当たり前なところがある。</p> <p>・トラック事業者には特定の荷主と取引をするものと手広く多様な荷主と取引をするものがあるが、特定の荷主と取引をする事業者は総じて手待ち時間が長い。</p> <p>・荷主は改善基準告示を知らない。運送事業者だけが必死に取り組むが、守りたくても守れないのが現状。</p> <p>・発着荷主の都合により手待ち時間が発生してしまいが、品目毎に固有の都合があり細かな対応が難しい。</p> <p>・荷主の理解を得るためには、運送事業者自身のレベルアップが必要。会員のレベルアップ研修を行っており、各会員が荷主に対して荷主との付き合い方等、運賃交渉など行っている。</p>	<p>・運賃の安さが賃金安となり、生活のため長時間労働に繋がっている。燃料費高騰、車両購入費の高騰等から従業員にしわ寄せがきている。改善策に期待している。(労働団体)</p> <p>・人材確保の面から言うと、待遇改善をどうしてもやらなければならない。本協議会の中で効率化・見直しが図られ運送事業者・荷主双方にとってのベストが生み出され、将来的には高齢者・女性が参画できるような業界になってくれれば良いと思う。(商工会議所連合会)</p> <p>・運送に伴う付帯作業も長時間労働につながる要因の一つである。(トラック協会)</p> <p>・米や野菜など主に関西方面や関東方面へ輸送を依頼しているが、帰り荷もセットで発注することにより、泊をつけて労働時間管理に繋がっている。</p> <p>・着荷主に午前中納品のため、早朝にトラックが集中してどうしても手待ち時間が発生してしまう。出荷は午後からになり、効率が悪い。(トラック協会)</p> <p>・適正運賃を収受することができれば、長時間労働も人手不足も問題にはならない。</p> <p>・実態を把握するためには全国スケジュールとは別にローカルで実態調査をすることも必要か。(学識経験者)</p>

地方協議会開催状況概要(速報版)

議題ごとの主な意見		
荷主	トラック事業者	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・荷主として労働時間管理のため15時以降の発注をしないことや、輸送先など効率を図ることにより、コスト削減に繋げている。 ・コンビニ、スーパーのシェア争い、長時間営業向けの夜間配送等で人手不足、ドライバー不足がエスカレートしている ・荷主、運送、小売と全体で環境改善に向けて意識が変わってきている。 ・鮮度が重要なものは、本来高い単価で売ることができるのに、トラック不足のため、鮮度(単価)を落として運ぶ事案が発生。 ・荷下ろしは、構内にトラックダンパーを設けてそのまま搬入可能とし、ドライバーに負担をかけないように工夫。 ・立地法で搬送時間帯の規制が有り、規制の中でいかにスムーズに届けるかが課題。地区人口は減少傾向で人手不足。労働時間が長いからその業界は魅力がないとは一概に言えない。仕事に魅力があれば就業、定着も可能。長時間労働にとらわれずに魅力を見つけていくことが重要。待受時間対策は荷下ろし前日の予約制を導入。また、待機時間解消のため荷下ろしスペースを確保するなど待機時間を解消。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ長時間労働をさせないために、長距離運転手の募集をしているが応募がない。長距離は数日間自宅に帰ることが出来ないため、若者に人気がない。このため運転者が高齢化している。 ・過当競争の中で過剰サービスを行ってきたがその対価は運賃の中に含まれているのが実態である。その結果、運転手に適正な労働対価を払えず夢の持てない業界になっている。この現状を取り上げて、真摯に変えて頂きたい。 ・長距離輸送が問題。ドラレコや運行記録計により問題点を洗い出すことも必要。 ・人手不足が問題となっている。かといって、トラックドライバーの採用にあたっては、誰でもよいわけではない。コンプライアンスや安全運行は第一である。若い人を雇いたいが、土日が休みがいいとか、長距離はいやだということをする人もいる。 ・收受運賃がもっと高ければ長時間労働の問題を解決する手立ても打てるが、それだけの余力がない現実を理解してほしい。 ・改善基準告示があるが、それを守れない実態がある。魅力ある労働環境となるよう膿を出し切り、4年後に成果を出したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働削減といっても実態を見るともっと働きたいという人もいる。若い人は長時間労働を嫌い安定を望んでいる。不規則な勤務形態では辞めていく人もおり人手不足となる。是非、安定した業態になってほしい。(労働団体) ・業界環境について、家庭生活を大切にする若者の生活環境に併せていき、割増分をどこがどういう風に負担するのかはコンセンサスを経なければならぬ。最終的には運賃に反映させるしかないのでは。(労働団体) ・トラック事業者の労働者は低賃金で働いており時間外手当をもらわないと生活できない実態があり、長時間労働につながっている。労働時間を短くするだけでは実質賃下げとなる。適正運賃の收受の議論も必要。(労働組合) ・多面的に検討をお願いしたい。例えば、改善基準告示や適正運賃の收受、渋滞緩和や高速道路の整備及び割引などについて。(学識経験者) ・車両、運転者が限られている中、いかに効率よく運送するかが重要。荷主側、運送側の双方で、業界を超えた発想・連携が必要ではないか。(経済団体)

地方協議会開催状況概要(速報版)

議題ごとの主な意見		
荷主	トラック事業者	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・運送は外部委託している。定期的に会合を開き、お互いの立場で情報交換している。 ・トラック事業者とウィンウィンの関係を築かなければいけないと認識しており、毎月定例会議を開催している。 ・女性ドライバーの進出のためには付帯作業(固縛作業等)の機械化等技術的な検討も必要では。 ・倉庫でトラックが混雑する時間と空いている時間がある。情報が把握できるシステムがあると良い。 ・時間が決まっているためそれに間に合わせる必要がある。改善のため自社でコンテナに積み込むなどの取組を行っている。引き続き時間短縮・効率化を進めていきたい。 ・着荷主(顧客)の発注を運送事業者へ素早く連絡することにより手待ち時間の短縮を図る取組を行っている。 ・実験的な取組ではあるが、女性の荷の取扱い範囲の拡大が可能であるため、パワードスーツを導入。 ・荷の動きが活発な時期とそうでない時期があり平準化できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運送事業者の立場は弱く、荷主の要望で配送時間が決まるケースが多く輸送時間より待ち時間の方が多きケースもある。運転者の拘束時間を短縮するために荷役の要員を配置して対応しているがコストが転嫁できない。 ・センターでの積み卸し等、輸送以外のサービスを求められることがあり、荷主からの依頼は断ることが難しい。 ・定時配送のためにドライバーの判断で早めに出発することにより長時間になってしまう。 ・発荷主と着荷主の連携がとれていないのが、手待ち時間発生の大きな要因。 ・パワーゲートの装着・活用により、荷役時間を1/8に減少させることが可能。 ・女性活用促進のためには、荷のモジュール化、トラックの荷台を15センチ程度下げることにより、従来より多くの荷下ろしが可能になるので低床化が必要。 ・手待ち時間の状況は複雑で、発着とも順番取りのため県外の車は早く到着して待機している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライバー不足が実態であり、若者は長時間労働、長時間拘束を嫌がる。綺麗な仕事、短い労働時間、高い給与の環境をいかにしていくかが課題。(経済団体) ・割増賃金率や休暇の問題は中小企業にとって負担になるが労働者を守る上ではやむを得ないことである。トラック業界の特性として非効率で改善が必要との声もある。実現するに当たり中小企業に対する支援がなお一層充実されるようお願いしたい。(経済団体) ・人を増やせば過労はなくなるが、経営者側は人件費の問題がある。適正運賃での契約が必要になる。(経営者協会) ・協議会を作って地域の実情を聞くだけではいけない。地域の実情が最終的に勘案された形で改善策に反映されなければならない。(中小企業団体) ・トラック業界は賃金が安い、運転手不足など厳しい状況である。荷主の十分な理解が必要。(経済団体) ・荷主は多重構造であることから、「真の荷主」「元請け物流会社」等の判断ができない。(荷主団体)

地方協議会開催状況概要(速報版)

議題ごとの主な意見		
荷主	トラック事業者	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ITの発展等により今の日本人が何不自由なく生活できるのは物流のおかげだが、そこに勤める関係者の仕事はハードであり若手が育っていない現実もある。日本人全体の生活をレベルアップさせる物流のあり方を考え何かのお役に立てたい。 ・物流に関しても毎年改善を進めてきているが出来ていないこともあり本協議会と上手くタイアップできればと考えている。 ・事業者ばかりではなく荷主サイドも困っているということを分かってもらいたい。根本的な問題が明らかになれば。ワーキンググループを設けて情報交換していきたい。 ・運送事業者だけではなく、関係取引企業とは定期的に会議を行って、お互いの問題点等を話しあって、改善できるものは提案を受けながら改善している。 ・トラック運送に関する人材が集まらず危機感を持っている。また、ITなどは革新的に進化してきたが物流は非効率にならざるを得ない面がある。実証実験などで改善を図っていければと思っている。 ・手待ち時間が多くなっている場合がある。改善を行い、効率化を図っていく余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地場の車についても、準備した貨物が片付かないと作業できないことや、検品しながらの積込みなど(時間が読めないことから)早く行かざるを得ない。 ・地方から関東圏への運行が多く、距離が伸び長時間労働になる。 ・規制緩和以降、事業者数の需給バランスが崩れてしまった。今後はドライバー不足により事業者も淘汰が進んでいく。ドライバーの待遇を良くしないと、ドライバーが業界を離れてしまい、業界からドライバーがいなくなってしまう。割増賃金にかかわらず、ドライバーの待遇を良くしたい。 ・現状、荷主に相談できない、交渉のテーブルにさえつけない事業者がほとんど。いかに荷主と相談できる環境になるかが大切。 ・荷主のジャストインタイム方式がトラック運転者の手待ち時間を作っている。 ・食料品の輸送は365日、24時間の輸送を求められる。 ・共同配送の提案や荷主と配送時間を調整しているが進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働については、事業者の自助努力だけでは難しい。関係者が一つのテーブルに付いて問題を解決したい。(トラック協会) ・消費者もわがままから長時間労働を助長しているのかも、急ぐ荷物と急がない荷物を分ける必要がある。(消費者) ・しっかり実態を把握して、改善策を担保できるように協議して頂きたい。また、改善策を実行することが重要であり、荷主と一緒に取り組んでいけるようなものにしなければならない。(地区通運協会) ・一般の方にトラック運送事業が日本の経済を担う役割を果たしていることを理解いただくよう伝えていくとともに、魅力ある業界を目指すことが重要。(県) ・容器やタンク等の専門の運搬具を用いる運送は、長時間の付帯作業も行っていると聞くので対象とされたい。(トラック協会)

地方協議会開催状況概要(速報版)

議題ごとの主な意見		
荷主	トラック事業者	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・出荷の平準化を営業部門に依頼するが、顧客の都合もありうまくいってない状況。 ・長距離運行では、新たに出荷拠点を設ける取組を行っている。 ・顧客からの納品のスピード化等の要請が強くなっている。 ・待ち時間等の問題は把握しているが、顧客の要請に応える必要があるので、荷主だけの改善は難しい。 ・着荷主に対し、運送条件(時間指定等)の緩和交渉は行っている。 ・コストをだれが負担するかということ。どう消費者・ユーザーに理解してもらうか。 ・待ち時間等の問題は把握しているが、顧客の要請に応える必要があるので、荷主だけの改善は難しい。 ・運送業は社会インフラと考えており、活性化・改善されると荷主にも利益がある。「荷主」「運送事業者」と立場を分けるのではなく、一体となって取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荷主に対し、手待ち時間の解決を。発荷主より着荷主で多く発生。運送会社から着荷主には言いづらいので、発荷主から着荷主へ交渉して欲しい。発荷主－運送会社－着荷主でしっかり連携を。 ・発荷主、着荷主間のコミュニケーションにより、効率化、省力化が可能。 ・運転者が工場内の作業をすることもあり、人材調達の障害となっている。 ・適正運賃が收受できれば基準内賃金の底上げ、時間外労働短縮が行える。 ・食品輸送では鉄鋼などに比べ、一日でも早い運送を求められるため、労働時間の短縮は困難な状況である。 ・手待ち時間、特に着荷主に関しては、8時間待ちなどの事例もゼロとはいえない。残業時間抑制、収入の問題を含め、取引関係の改善をしないと、生き残れない。 ・荷主との環境改善を話し合える状況を作ることが第一。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラック業界は99%が中小企業で、ドライバーの平均年齢高く若い人がいない、労働力不足でしかも労働時間が他の産業と比べて長いなど、今、対策を講じないと産業が成り立たなくなる。当該協議会議論が有効なものになることを望む。(労働団体) ・運転手を募集しても集まらない。労働不足について協議会で活発な意見をしていきたい。(労働組合) ・規制緩和の影響があって、過当競争等このような状況になっている。まずはその点を総括するべきではないか。(労働組合) ・運送業界は他より長時間労働の上、賃金は3割ほど安いのが現状、今後労働者にとって働きやすい職場を作って頂きたい。(労働組合) ・長時間労働が改善されれば、より働きやすい環境になる。労働時間が改善されれば、トラック運転手になりたいという人が増えていくはずなので、議論が進んで良い方向に向かって欲しい。(労働組合) ・長時間労働については喫緊な課題である。長時間労働の改善に踏み込まない限りドライバー不足の解消も困難。若い方が自動車に興味を持つ取組も必要である。(労働団体)

地方協議会開催状況概要(速報版)

議題ごとの主な意見		
荷主	トラック事業者	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・運送費を上げると運送事業者の労働力不足などの問題は解決するが、荷主も利益を上げなければならない。共存共栄しなければならない。残業をなくすために荷を早く出すことは可能だが、そのために2日の輸送期間が3日になると運賃が上がる。総論賛成、各論反対といったジレンマがある。 ・「手待ち時間」が大きな時間になっているが、商品の流れは、生産者、メーカー、卸店、販売店となる。販売店の意見も参考にすべき。 ・「人材の確保」、これが一番の課題。これを解決していくためには賃金の改定とか、労働条件の改善とかやっていかなければいけないが、それが単価として乗っかる、川上から川下へと、どこかに負担が集中すれば物流は成り立たないので、そのバランスを取りながら、会社だけではなく個々の一人一人までがよい状態で働ける環境作りが大事。 ・ドライバーが少なく、繁忙期に荷物を運べないときがある。荷主側でももっと効率的な出荷を考えなければならないと思う。 ・店側の意向が強く、開店時間に併せた配送となっている。全体的な仕組みを変えないと駄目ではないか。 ・顧客からの納品のスピード化等の要請が強くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーを継続して利用する、大阪等に営業所を新設し中継輸送を行う等の対策は、体力のあるところだけしかできない。 ・付帯業務を強いられている裏には、競争原理から付帯業務を進んでやる会社がいる。 ・荷主の中には、ドライバーに対して荷主が所有するフォークリフトを荷下ろしのために使用させ、労働災害が発生している事例がある。 ・そもそも改善基準告示が荷主に知れ渡っていない。月60時間超えの実態について荷主・運送会社の中で把握・問題視されていないのが現状であるため、まず周知から始めるべき。 ・トラック運送事業者は弱い立場にあるといわれている。お客様の計画に合わせて仕事をする中で労働時間が超過することがある。大事故・トラブルの一つの原因として長時間労働ということもある。長時間労働を減らして、健全なる労働環境の中で仕事をさせてほしい。 ・労働災害を改善していかないと運転者不足の現状は解決していかない。トラック業界の労働環境を改善して、魅力ある業界にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラック業界は震災後の活躍でその重要性が再認識されたところだが、時が経ち現在は低賃金などで若年層から振り向いてもらえない業界となっている。やりがいを持てる産業になるよう頑張っていきたい。(労働組合) ・すべての企業を支援する立場から、実態調査の結果を踏まえ、実効性のあるガイドラインの策定に協力したい。(経済団体) ・運賃の問題にはね返ざるを得ない、いかに適正に反映させるかが、大きな問題。(経団) ・人手不足でこのこの事業が成り立つか心配である。生産性の向上と女性の活躍を期待したい。(経団) ・地域別、積荷別に長時間労働の要因は何かをクローズアップしたい。(トラック協会) ・若年層の方は賃金ではなく自分の時間を持てるような仕事を求めているので、業界としてもイメージを変えなければならない。(トラック協会)